

警書の逸書なく出づ。ほなれはる合事若
の個れ一環丸と云一警もけり出り。
事もありて警尾山とは名付るもやる合
事ある事ハ俗説辨は要一れば累々羽
源記より雄とあり羽鳥の并寛る雄乃
源寛おといふ一人出るの大力の云た一手に
義勝の倭は向ふと云くは人の事ハ大山乃
場の下は江と又東海林兄弟朝日山一龍り
一時も警尾の龍虎と力志く事あり
又雄山源記諸略の事といふ条ありを

案よる雄山龍虎後福坊阿闍梨源範と云
又東海林も政言雄山は龍事といふ条あり
そ文中に小平といふ山ちにそ夜は着して
手負の云ともを休め痛^はく東海林も政ハ海
遍^は同着して薬師堂にそ夜は面夜して
罪障懺悔の爲は誦經を仏してと云く政
は山は龍り一ハ中野は安合戦の年よて
天正十二年酉の秋なりけり誠云は討逐し
上勢ハ子ハる十三人とあり是より左内
系勝の事ハ入後福寺源寛海并上勢ハ